

Biz Clip調査レポート(第21回)

企業の監視カメラ導入実態調査

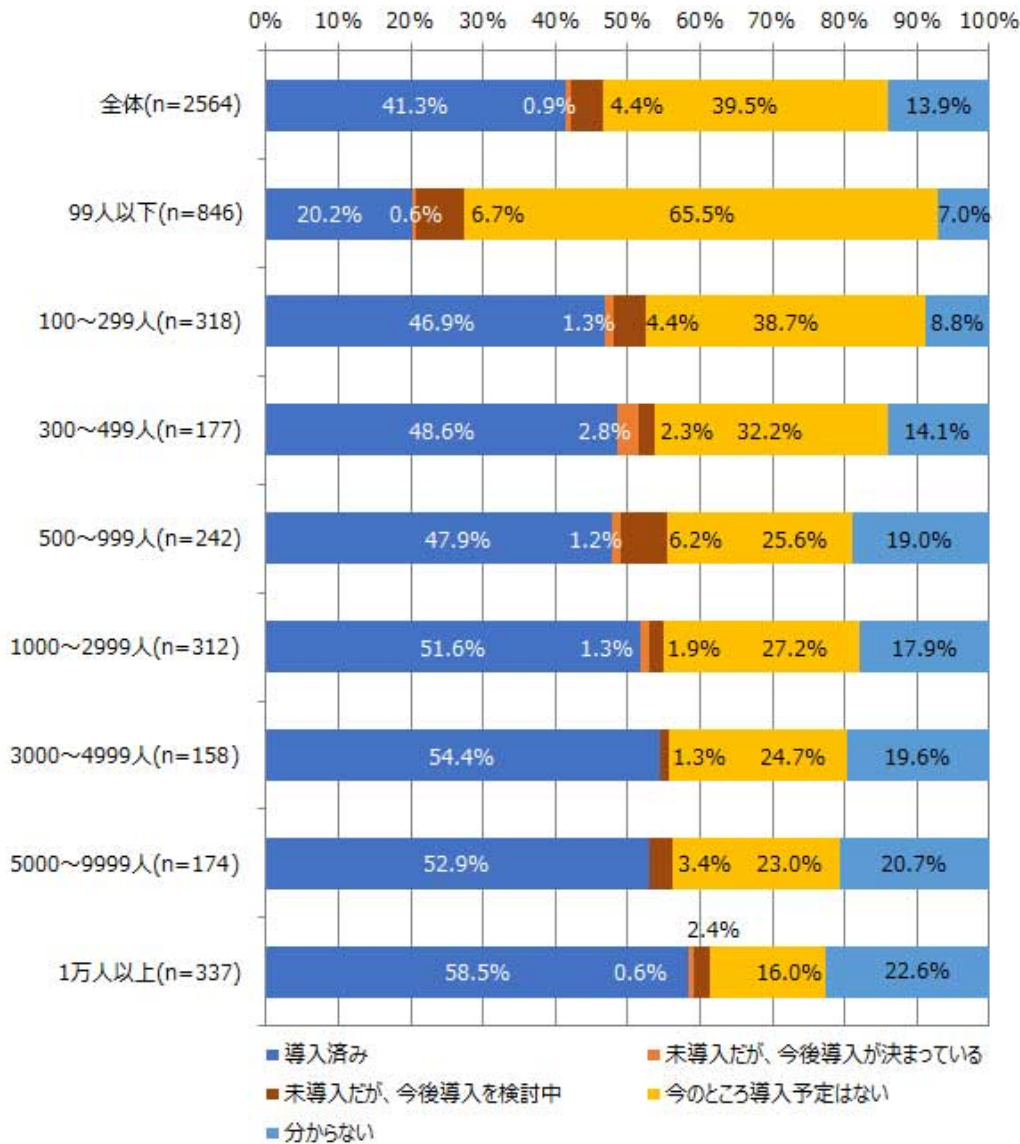
2020.04.22

企業における監視カメラの導入比率と用途、および満足度や不満点について、2020年3月に実態調査を行った。調査は、日経BPコンサルティングのアンケートシステムにて、同社保有の調査モニター3613人を対象に実施した。

監視カメラ導入は4割

業務または管理のために、監視カメラを「導入済み」と回答したのは41.3%。「未導入だが今後導入が決まっている」と「未導入だが今後導入を検討中」という前向きな回答が合わせて5.3%。「今のところ導入予定はない」は39.5%だった。監視カメラを検討中という企業はそれほど多くなく、使いたいと考える企業はすでに導入済みな傾向がある。検討すらしない企業は4割近くある。

【図1 監視カメラの導入状況(従業員規模別)】

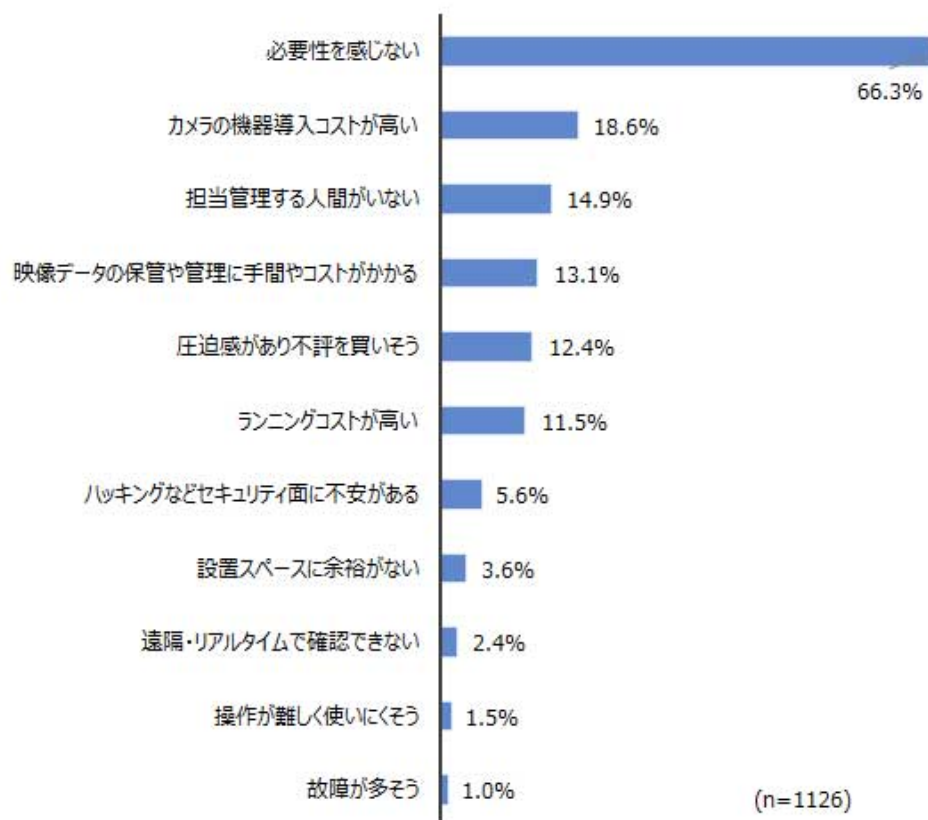


導入状況を従業員規模別に見ると、従業員規模が大きい企業ほど導入が進む傾向が見られた。1万人以上の企業では、58.5%が導入済みだ。従業員規模が小さくなるほど導入済み比率は少なくなるが、100～299人の規模でも46.9%は導入済みと回答している。しかし99人以下の企業では、その半分以上の20.2%まで下がる。監視カメラの導入に関しては、従業員100人以上と、それ以下でかなりの差が生じた。従業員99人以下では、「今のところ導入予定はない」という回答が65.5%で、約3分の2を占める。

「導入していない」と答えた回答者に、その理由を聞いた結果(複数回答)では、圧倒的に多かったのは「必要性を感じない」(66.3%)だった。それに続いたのが「カメラの機器導入コストが高い」(18.6%)、「担当管理する人間がいない」(14.9%)、「映像データの保管や管理に手間やコストがかかる」(13.1%)といった、コストや手間の問題だった。

一方、「故障が多そう」(1.0%)や「操作が難しく使いにくそう」(1.5%)といった、他のIT機器の場合には問題になりそうな回答は非常に少なかった。

【図2 導入しない理由(複数回答)】



導入の目的は「防犯」が圧倒的に多い… 続きを読む